

令和5年4月の解説（府県天気予報）

【4月の天候状況】

上旬は、全国的に天気は数日の周期で変化しました。6日から7日頃に前線を伴った低気圧が日本海を進んだため、全国的に曇りや雨の天気となり、低気圧の影響を受けた北日本日本海側や湿った空気が流れ込みやすかった西日本太平洋側ではまとまった雨が降り、降水量は多くなりました。期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて晴れた日が多く、湿った空気の影響も受けにくかった東・西日本日本海側と沖縄・奄美の日照時間は多くなりました。北日本から西日本にかけて暖かい空気が流れ込みやすく、また北日本を中心に上空の暖かい空気に覆われやすかったため、北日本、東日本、西日本の平均気温はかなり高く、北日本の平均気温平年差は+2.9℃で、1946年の統計開始以降、4月上旬として最も高くなりました。一方、沖縄・奄美では、期間の終わりに大陸から進んできた冷涼な高気圧に覆われて気温が平年を下回る日があり、平均気温は平年並でした。

中旬は、全国的に天気は数日の周期で変化しました。15日頃には前線を伴った低気圧が本州付近を通過して全国的にまとまった雨が降り、19日には沖縄・奄美で大雨が降った所があったため、降水量は沖縄・奄美でかなり多く、北・西日本日本海側と北・西日本太平洋側で多くなりました。沖縄・奄美では、期間の前半を中心に高気圧に覆われやすかったため日照時間はかなり多くなりました。南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、平均気温は北日本、東日本と沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高くなりました。

下旬は、全国的に天気は数日の周期で変化しました。低気圧や前線と高気圧が日本付近を交互に通過し、低気圧や前線の通過に伴い本州付近ではまとまった雨も降ったため、降水量は西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側で多くなりました。日照時間は低気圧や前線の影響を受けた西日本日本海側や西日本太平洋側で少なくなりました。一方、高気圧に覆われやすい時期があった北日本太平洋側で多くなりました。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響を受けにくかったため降水量は少なくなりましたが、湿った空気の影響で曇りの日が多かったため日照時間は少なくなりました。平均気温は、高気圧に覆われやすい時期があった北日本で高くなりました。

【4月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より3%高い89%で、明後日予報は例年値より5%高い88%でした。地方別の適中率では、明日予報では、東海地方、近畿地方、九州南部地方では例年値を下回りましたが、それ以外の地方では平年値を上回りました。明後日予報では、すべての地方で例年値と同じか例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.5℃小さい1.3℃で、全ての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の天気予報の利用にあたって】

平年では、6月の中旬ごろには全国的に梅雨入りとなります。梅雨の時期は、他の季節に比べて大雨が発生しやすく、山崩れ、地滑り等の土砂災害、河川の増水や氾濫、低い土地の浸水などの災害をもたらすことがあります。大雨が予想される場合には、最新の気象情報や早期注意情報、大雨・洪水の注意報、警報の発表状況にも留意してください。